生活環境科学専攻

―学位授与・教育課程編成・入学者受入れの方針―

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【教育理念と目的】

生活環境科学専攻は、生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供し、主体的でリーダーシップを発揮でき、幅広い知識と高度な研究能力、技術を備え、高度職業人として社会に貢献する人材を養成します。

【身につけるべき力】

・広い視野に立って生活環境科学に関する知識を探求するための論理的思考力
・高度な専門職として活動するための確固たる課題解決能力と企画提案・遂行力
・豊かな学際性と、現代社会の諸課題に提言しうる実践性とを備えた研究能力

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身に付け、所定の期間在学してカリキュラム・ポリシーに沿って設定された授業科目について所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に博士の学位を授与します。付記する専攻分野の名称は「生活環境学」、「社会科学」、「情報科学」、「理学」、「学術」のいずれかで、学位論文の内容が生活環境学に関連した内容が主である場合には博士（生活環境学）、情報科学に関連した内容が主である場合には博士（情報科学）、理学的な内容が位置を占める場合には博士（理学）、社会科学に関連した内容が主である場合には博士（社会科学）の学位を授与し、複合的・学際的な内容が多く含まれていたり学際領域の分野に該当したりする場合には、博士（学術）を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

生活環境科学専攻の学生は、自ら志望する研究分野をもとに、専門性を深化させるための専修系プログラムと、諸学問を複合的に洞察するための複合系プログラムのいずれかを選択します。

専修系の履修系列を選択した学生は、論文等作成群、専門科目群の必修科目から３単位（「博士論文執筆指導」（２単位）、「研究倫理・研究マネジメント」（１単位））、専門科目群の選択科目から６単位以上、大学院共通科目群や複合系プログラム科目群の中から１単位以上を含み、合計 12 単位以上を

履修します。

複合系の履修系列を選択した学生は、論文等作成群、専門科目群の必修科目から３単位（「博士論文執筆指導」（２単位)、「研究倫理・研究マネジメント」（１単位))、専門科目群の選択科目から３単位以上、複合系プログラム毎に指定された大学院共通科目や複合系プログラム科目の中から４単位以上を含み、合計 12 単位以上を履修します。

いずれの履修系列の学生も、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件となります。専修系の履修系列を選択しても、学際的な視野を身につけることができるよう、その他の科目として３つの複合系プログラムやキャリア開発関連科目が提供する大学院共通科目を履修することとしています。

専門科目は学生の研究分野に応じて履修することになりますが、１年次の専門科目「研究倫理・研究マネジメント」は必修科目となっています。「博士論文執筆指導」は、博士後期課程在籍中（１～３年次）に継続して行われる博士論文執筆指導で、これも必修科目として位置付けています

【教育の内容と方法】

食物栄養学講座では、健全で快適な食生活の創造を目的として、食物の栄養性・機能性・安全性・調理加工性の基礎研究及び代謝・免疫機序の解明や疾病予防の領域において、医学、農学、薬学、情報科学、食生活学、社会医学を基盤として、分子・細胞レベルから生体、さらには人の集団を対象とする疫学研究まで、食物栄養学を俯瞰できる視点での研究・教育を行います。論文作成等に係る研究指導体制を提供し、高度な専門的知識及び研究能力の獲得を促進します。

心身健康学講座では、こころとからだにかかわる生活環境、健康行動を取り巻く諸課題についての科学的議論や研究成果の発表により、問題解決能力を身につけることを重視します。そのために、細胞レベルから生体、さらには集団、社会を対象とする研究まで、広い範囲にわたって研究・教育を行います。

情報衣環境学講座では、快適・健康・安全な生活環境を創り出すために生活の実態を理解し問題点を発見した上でその改善のための方策を自ら指導的に行える人材と、現代社会のＩＣＴ環境を構成しつつあるライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する技術を開発し社会に発信できる人材を育成することを目的とし、より良い生活環境を創出する情報衣環境学の展開を目指します。

住環境学講座では、安全・安心で、快適に生活することができる住環境を計画、設計、管理するために、住宅から都市にいたる多様な環境と人間生活のあるべき関係を、生活者の視点から構築するための、理論的かつ柔軟な考察力を身につけることを重視します。そのために、住宅から都市に至る多様な住環境の特性を踏まえたうえで、そのあり方を人間生活に関連づけて探求するとともに、その計画、設計、建設、管理に関わる技術や制度について教育・研究します。

生活文化学講座では、個人・家族・地域といった様々なレベルでの生活文化の課題を分析するために、社会学・経済学・歴史学・法学・社会心理学・ジェンダー論など、人文科学・社会科学にわたる多様な領域のアプローチ方法を学びます。ここには日本・アジア・欧米の各地域研究も含まれます。個別論文指導では副指導体制を重視し、上記の学びを各自の専門研究の視野と方法論を学際的なものに深化・発展させることに直結させます。

【学修成果の評価】

開講科目は、シラバスにその成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）とその割合を明示します。学修成果の評価は、科目の特性に応じて、公正かつ的確に実施します。博士論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

生活環境科学は総合系複合領域学問であることから、広い視野に立って生活環境科学に関する知識を多角的に探求し、それらを統合的に体系化する論理的思考力が必要です。生活環境科学専攻は、生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供し、個々の学問領域における専門的な教育研究を推進するとともに、主体的でリーダーシップを発揮でき、幅広い知識と高度な研究能力と技術を備えた専門職業人として社会に貢献する人材を育成することを目指します。その実現のために、生活環境科学専攻には食物栄養学講座、心身健康学講座、情報衣環境学講座、住環境学講座、生活文化学講座を設けています。

食物栄養学講座は、病気を予防し、健康を維持・増進する食生活を実現するために、健全で快適な食生活の創造及び現代の食に関する多様な問題の解決を目的として研究・教育を行い、国内外における食物栄養学領域の研究を先導できる女性研究者や、高度専門職業人として当該職域を牽引し、社会に貢献できる人材の育成を目指します。

心身健康学講座は、生活環境や生活習慣の視点から心と体の健康に関する多様な問題の解決を目指し、心身の健康に連関する科学的な知識を総合的に学びます。生活健康学では生体機能という観点から、スポーツ科学ではスポーツを取り巻く諸問題という観点から、臨床心理学コースでは心の健康という観点から、それぞれの分野を先導できる女性研究者や高度専門職業人として当該職域を牽引し、社会に貢献できる人材の育成を目指します。

情報衣環境学講座は、より良い生活環境を創出する情報衣環境学の展開を目指し、衣環境学コースでは生活の実態を理解し、衣環境学に関連する諸問題に対し、物質科学、環境科学、分析科学の原理や技術に基づき、改善方策を自ら指導的に行える高度専門職業人や研究者の育成を目指し、生活情報通信科学コースでは現代社会の ICT 環境を構成しつつあるライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する技術を開発し社会に発信できる高度専門職業人や女性研究者の育成を目指します。

住環境学講座は、日常的な生活から地球環境に関わる諸問題を生活者の視点から総合的に捉え、社会が求める安全で安心できる住まい、かつ快適で魅力的な住環境という要請に応え、住宅から都市にいたる多様な環境と人間生活のあるべき関係に配慮した住環境の構築と管理運営に関する幅広い知識と技能を有する高度専門職業人や女性研究者の育成を目指します。

生活文化学講座は、生活環境に関わるあらゆる事象の中に研究対象を見出すことを特徴とし、発見した諸問題の複雑な相互連関までを人文科学もしくは社会科学領域の研究手法を用いて分析し、研究

を現実社会への提言に結びつけることで社会に貢献する高度専門職業人や女性研究者の育成を目指します。

本専攻の求める学生像は以下の通りです。

【求める学生像】

・個々の学問領域の基礎となる専門知識を有し、新たな認識・知識の獲得に意欲的な人
・生活における諸問題を学際的に深く探究しようとする人
・専門的知識を再構築する意欲や新しい分野の展開に積極的に関わる意欲ある人
・幅広い事業分野で専門職業人として、女性リーダーとして社会貢献を目指す人
・さまざまな分野で国際社会に貢献することを目指す人

【入学者選抜の基本方針】

上記の【求める学生像】で示す能力などを有する人を多面的・総合的に評価するため、以下の方法により選抜します。

（1）一般選抜

修士論文（又はその要旨など）、研究計画書、専門性を問う口述試験の結果を総合して合否を判定します。

（2）社会人特別選抜

修士論文（又はその要旨など）、研究計画書、社会人特別選抜を希望する理由書、専門性を問う口述試験の結果を総合して合否を判定します。

（3）外国人留学生特別選抜

修士論文（又はその要旨など）、研究計画書、日本語能力試験成績（又は指導教員が作成した日本語能力に関する所見など）、専門性を問う口述試験の結果を総合して合否を判定します。

なお、上記の選抜では、社会人等多様な学生のチャレンジを促すために以下のような支援制度を設けています。

・長期履修学生制度
　職業を有している等の理由で、一般の学生に比べて研究活動・学習活動への時間数が限られた学生を対象に、事情に応じて就業年限を標準３年からより長期に設定することが可能です。
・再チャレンジ型若手女性研究者支援制度
　博士後期課程中退者を対象に、本学大学院博士後期課程で博士号の取得を支援する制度です。
・博士前期課程修了者博士号取得支援制度
　修士課程を修了し、１年以上の社会経験を経た者を対象に、博士号取得を支援する制度です。